

# カインヨ倶楽部会報

平成15年6月発行 発行者 砺波カインヨ倶楽部 代表幹事 柏樹直樹  
 事務局 富山県砺波市表町7-25 電話 0763-33-6588 天野一男建築工房内

## 倶楽部で「枝おろし」を学び、 正しい「枝おろし」をアピールしよう

5月24日午後 中島家(チューリップ公園内)で、カインヨ倶楽部の総会を開きました。28名が参加し、「15年度の行事」計画や新役員を確認しました。最近のカインヨをとりまく状況について数名の方から意見が出ました。

- ・スギの枝うちは、強すぎないか。枯れやすいように思われる
- ・家の人が過度な枝おろしをすると木がどうなるか知らずに、職人さんにまかせている
- ・小学校の庭のマツの枝をおろしたが、それを見て育つ子どもは、枝が切られたマツを本来の自然なマツの姿だと思ひこむのではないか。
- ・高齢者からの相談に応え、屋敷林の世話ができないなら伐ってよいが、また木を植えてほしいと言ってあげた。
- ・神社の枝おろしが多くなっているが、あれでは頭が下がらないようになる。(畏敬の念がなくなる)
- ・女兒が生まれると、桐を植えていたというような習慣を貫きたい。
- ・倶楽部として、「枝おろし」についてアピールしよう。

### 高多さんと金岡さん新役員に

総会には、中沖豊知事から祝電が寄せられました。柏樹直樹代表幹事があいさつした(別掲)後、会を進めました。天野事務局長の「14年度事業報告」「14年度決算報告」は、拍手で承認されました。新役員は次のとおりです。(任期2年)

代表幹事：柏樹直樹

幹事：新藤正夫、尾田武雄、高木美奈子、

台蔵正一、出村忍、高多康弘、金岡奈穂子

事務局長：天野一男

監事：和田健

新役員に、若い高多さん、金岡さんが加わり、カインヨ倶楽部に活気と新味が注入されます。



写真：囲炉裏をかこんでの総会

### 1. 活動の柱は、

- 一、カインヨを元気づけるために、会員はどんなつき合い方をするか再考してみる。
- 一、見学・掃除をとおり、カインヨを深く考え交流する。
- 一、他地域の樹木とのつき合い方を見学する。
- 一、会員の提案・経験を大切に、倶楽部の財産にしていく。  
——会報の役割をいっそう重視する。

### 2. 以上の柱に基づき次の取り組みを行う。

- 5月24日(土) 総会 午後二時より 中島家にて  
(若い会員からの提案を受け、みんなで考える時間を過ごす)
- 7月6日(日) 手取川扇状地の集落と屋敷林の見学(石川県)  
(参加者を募りバス1台分で締め切りとする・日帰り)
- 8月30日(土) 千光寺樹叢見学と掃除
- 10月4日(土) 鹿島神明社と宮崎保治さん宅の屋敷林の見学  
(樹叢の重みと庭と若齢屋敷林の今の姿にふれる)
- 11月1日(土) 大島治彦さん宅の屋敷林掃除(下枝おろしと掃除で、体験交流)
- 平成16年4月中頃 岡本晃一さん宅の屋敷林散策  
(新緑の広い屋敷林を見学。庭や水廻りの先人の知恵に学ぶ)
- 神社の樹叢の調査 数社
- 苗木の配布 会員の中から希望者を募る
- その他 随時検討し行う。

### 柏樹代表幹事のあいさつ要旨

- ・倶楽部への期待や注目が大きい。又、カインヨをとりまく環境も変わってきている。
- ・活動の理念は全く変える必要がない。会員間のキャッチボールが不足している。
- ・外部での樹木との交流の姿を見学することも考え活動に加えたい。
- ・会報を重視し、会員間の交流の場にしていく。
- ・若い人の行動力やカインヨ維持で難儀している人の立場での協力を大事にしたい。

## 若い高多・野村・金岡さんからカイニヨへの話題提起 カイニヨ維持の苦労や木材としての利用案も出る

総会の後、若い3人の会員から「カイニヨ」にまつわる思いや意気込みを提案報告してもらい、意見交換しました。

### ◆高多康弘さん（高岡市戸出西部金屋）

- ・子供の頃、祖母の手伝いでスンバ掃きをした経験から、緑、自然、農業への関心につながり、大学では農学部に進学した。
- ・仕事では、五箇山地方の農業用水路や道路整備に関わっていて、山が切り開かれていくことに心が痛むこともあるが、溪流をつたって川になり平野の水田をつくっている、その水源の山に入り自然の恵みを受けて生きていることに気づき、感動することもあった。カイニヨもそうした山の木と深く繋がっていると思うと、その恩恵を大事にしたい。
- ・理屈よりも、身体や手を動かして汗を流しながら、カイニヨに囲まれた暮らしの豊かさ、こちよさを感じたり、手入れの仕方など身につけたりして、カイニヨを育てていきたい。

### ◆野村和則さん（砺波市五郎丸）

- ・福井大学では、土木や建築を専攻した。卒論のテーマからの思いを今も持っている。
- ・福井と砺波には共通点が多いと感じている。（風土・産業・人間性？）
- ・区画整理、ほ場整備が進んだが、これからは、古いもののうち、よいものを生かすべきだ。
- ・デザインに興味を持っている。「音」も「香り」も形はないが、デザインの1つだ。その土地（場）にいることで「聞く」「嗅ぐ」ことができる、これをキーワードに砺波を考えたらどうか。
- ・砺波の環境を考えるチャンスとして、①田園空間整備②農村環境計画③庄川左岸用排水路改修、等の事業を住民サイドで見たい。やっぱり砺波の生活がよくなったという場をつくってきたい。

### ◆金岡奈穂子（砺波市出町）

- ・美しい散居風景に関心を持っている。美しいと愛でるだけでは、風景は維持できないので、いろいろな取り組みを通じて新しい役割や生活との関わり方を模索したい。
- ・カイニヨの不便さをおして残そうとする人が少なくなってきたことに、木と付き合ってきた人の心情や手法、その生き方のようなことが自然と伝わっていくような生活が楽しくできたらいい。これが、生活への価値観に繋がっていくのではないか。
- ・カイニヨの体験ツアーを2回やって、毎年10名余りの人が参加している。こうした体験や声を広め、特にカイニヨを持っている人にかえしていきたい。
- ・参加者の中には、カイニヨのある家に住み、農業をやりたいという若い人もいた。



写真：カイニヨイズム体験ツアーの様子

フレッシュな3人の意見を聞いて、会は盛り上がり、4時過ぎになっても話は切れず「又、次の機会に引き継ぐ」ことで終わりました。

主な意見は次のとおりです。

- A・カイニヨリズムをやった人たちの気持ちはどうか。
- O・ツアーの募集はどうしてやったか。
- O・外部の人が来ることで大いに刺激が与えられる。カイニヨをあたりまえのものとしているが、全国の視点でみると、大変な価値のあるものかもしれない。
- K・土地の風景・風土が壊され、絵が残らなくなっている。神社のガラス張りはとてもいただけない。建物が朽ちるのも命ではないか。
  - ・原風景を表彰することもどうか。倶楽部に造園業の人も入ってもらったらよい。
- O・新しい団地、学校、工場に木を植えることが大事。
  - I・若い人は、木は嫌いではないが手入れがいやだと —— 隣の木に期待か。
- N・住んでいる人の立場でカイニヨを考えてほしい。
- K・暮らしと一体であったカイニヨとの関係が変わってきている。若い人の意見も聞き少しずつ変わっていくものでないか。
  - ・カイニヨは、意識して守るとするのが、会の仕事だ。
  - ・見学させてもらったカイニヨの家の地図を作ってみると楽しい。一その「点」を守るために表彰することも面白い。
- H・クリは虫が入りやすく、この秋50年生のものを5本伐った。その費用も大変なものだ。
  - ・屋敷林の木材を希望者に使ってもらう橋渡しもあってよい。又、公民館建設等の際に、それぞれの地区内で伐ってよいというカイニヨの一部を木材として活用するのもよい。
- H・神社を維持するための手段としてガラスの囲いをしている。これは、仕方ないことだ。
- H・みんないつかは土に帰ることだ。
- O・家の新築でカイニヨを伐ってしまったが、これでよいのか反省している。
- M・若い人も自由に発言できる楽しい集いだと思って参加していきたい。
  - ・祖父母がカイニヨは残さんなんものと言っていたことが心の中に残っている。
- T・若い屋敷林の見学会に関心を持っている。

